

第38回運営推進会議

看護小規模多機能型居宅介護事業所るぴなす

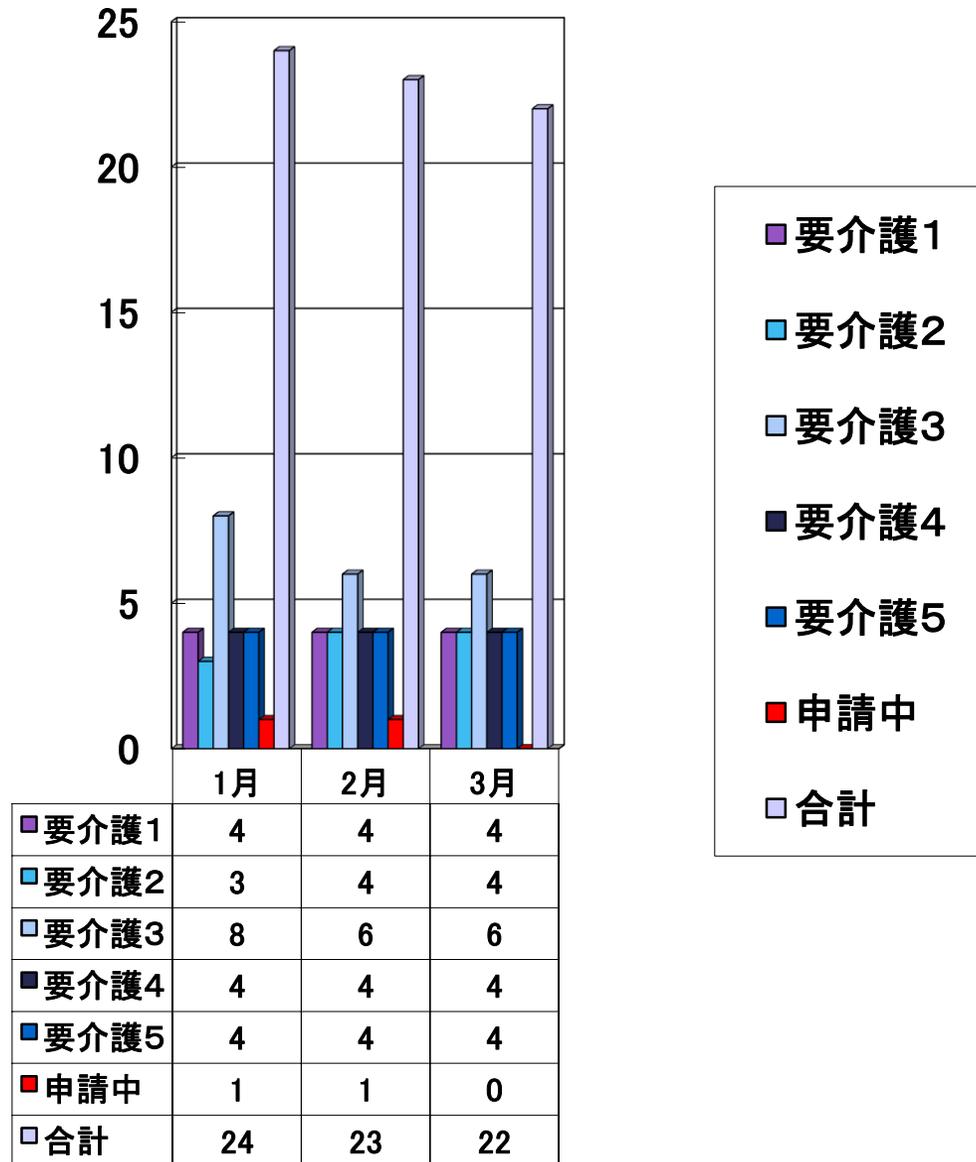
平成31年3月6日

第38回運営推進会議

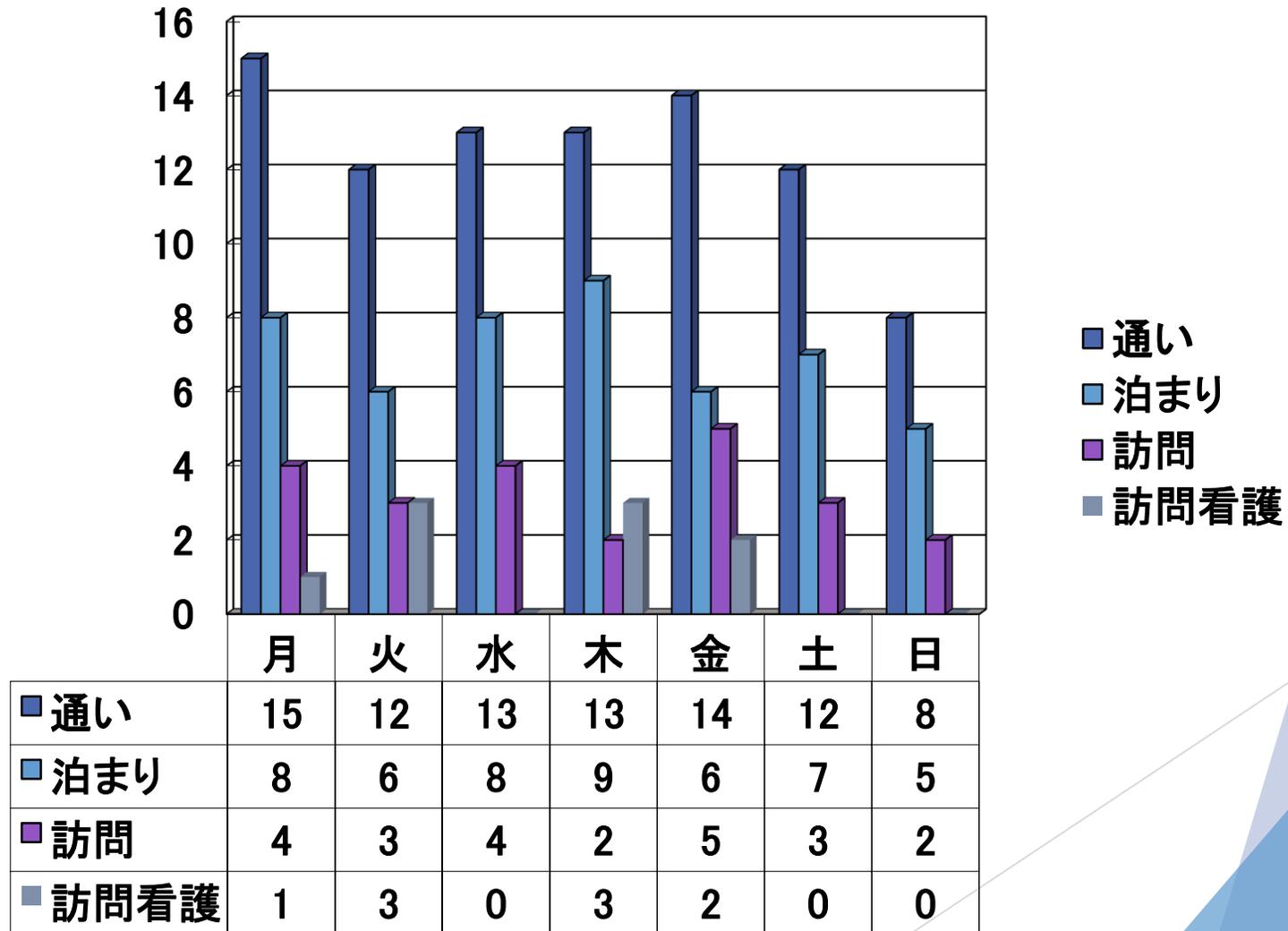
- るぴなすご利用者現況報告
- 新規ご利用者紹介
- 看取りの報告
- 活動報告
- サービス評価
- その他質疑応答・要望等

登録利用者数

平成31年1月～平成32年3月



平成31年3月 曜日別利用者数



夜間想定避難訓練

- <日時> 平成31年1月24日(木) 14:00~15:00
- <場所> るびなす屋内から縁側
- <実施内容> 夜間想定避難訓練・・・初期消火, 119番通報, 避難誘導
- <想定時刻> 22:00
- <参加者> 看護小規模多機能 利用者7名 職員8名
- <実施計画> 夜勤者1名の時に、火災発生。火災報知器が鳴る。(消防署への通報は自動) 出火場所を火災受信機で確認。初期消火。縁側まで避難誘導する。

<訓練の流れ・役割分担>

- ① 火災報知器が鳴ったのを聞き、事務室の火災受信機で出火場所を確認。
- ② 消火器を持ち、出火場所を探し初期消火(20秒)
- ③ 縁側窓の鍵を開ける。避難経路を作りながら避難誘導へ。
- ④ 避難誘導(タオルで鼻・口を覆い、転倒に気を付け、低い姿勢で移動)
- ⑤ 全員を縁側まで避難誘導し、外部からの救助を待つ。
- ⑥ 5分後助けに来た職員が避難誘導に加わる。

縁側にて人数確認。逃げ遅れや、けが人はいないか確認し、管理者へ報告する。

今後の予定

- ◆ 桃の節句
- ◆ お花見
- ◆ お誕生会

これからの取組

人材不足と地域貢献

介護職員の人材不足 ➡ 裾野を広げる
就労支援事業所との連携
障がい者就労委託契約 ➡ 障がい者就労の場の提供

地域のお力をおかりして ➡ 配食見守り

地域の中で私たちにできること ➡

第38回運営推進会議

看護小規模多機能居宅介護事業所るぴなす

開催日時：平成31年3月6日(水) 18:00～

出席者：自治会長・目黒様，地域包括センター山潟・小石様，民生委員・大嶋様

ご利用者ご家族・本間様，和田様，高橋様

法人代表・斎藤先生，法人総務・物江，管理者・小林

1 はじめに

- ・インフルエンザの後は花粉症で大変です。花粉症は年齢関係なく突然起こります。
- ・今行っているサービス評価は地域密着型サービスは平成27年に法律で決められましたが、日本看護協会が作った文章なので形式的ですが、実践例を通してどうしていけば良いか考えていけたらと思います。サービス評価は質を担保する為、運営推進会議は地域と連携をとってまちづくりを行うために、国が進めている大事な取り組みです。今日はこの二本立てで行いますので宜しくお願いします。

2、ご利用者現況報告

○登録利用者数

- ・1月24名、2月23名、3月22名

○曜日別利用者数

- ・ 通い8～15名、泊まり5～9名、訪問2～5名、訪問看護0～3名

ご希望や体調などにより変更をお受けしているため、通い・泊まりの人数は毎週変動があります。

3、新規ご利用者、看取りの報告

H・Z様・・・化学療法を終了し緩和ケアへ。がん末期で暫定利用であったが、まだ介護認定が出ていない。トイレへ行って動けなくなると助けに行った。家族全体を見る、奥様も一体的に見れた小規模らしさ。地域の方近所の方から、見守り、ゴミ捨てなど、奥様一人になったので今もして頂いている。

斎藤先生：化学療法の終了は死の宣告ではない。化学療法が長いと苦しみながら死ぬ。同時に緩和ケアをした方が良くWHOから発表があった。サービス利用者だけでなく家族、地域も見守る。地域づくりも役割。時間も使い方も必要としている所をサポートできる。モルヒネも使用した。前日一緒にウイスキーを飲んだ。亡くなる少し前、仲間が飲み屋に連れて行ってくれた。

目黒様：それは喜んだでしょう。碁もやるし、お酒が好きで、古町へカラオケにも一緒に行ったことがある。

K・S様・・・入居していたグループホームでは看取りも酸素使用もできなかった。福島の娘様夫婦も週末泊まり、一緒に過ごせた。グループホームでは泊まれなかったのが良い時間となった。小規模は訪問に制限がないので細かく入れた。亡くなった日、15時まで娘様がいたが離れた時に息を引き取り、気を遣ってそうしたのでしょう。お孫様も来て一緒に過ごせたのも良かった。

4、活動報告

○行事、日頃の様子をパワーポイントで写真を見て頂きながら報告

- ・節分・・・鬼にボールをぶつけました。
- ・居場所・・・落ち着く、自分の居場所がある。
- ・ドリンクバー・・・自分で見て選びました。
- ・梅見・・・蒲原神社
- ・夜間想定避難訓練の報告・・・災害はいつあるかわからないので、訓練を重ねていく。自治会長へも連絡が行くようになっています。

目黒様：最近火災が多く、亡くなる人が多い。一家3～4人亡くなったり。原因はストーブ、電気の配線が多いようです。

- ・お誕生会

5、今後の予定

6、サービス評価

- ・これまで職員個々に評価を行い、意見交換を行った。まとめたものを事前にお配りし、ご意見出していただく。

小石様：全て目を通しましたが、全体的におおよそ出来ている。今までできていない所の取り組みが計画的にできていると思う。

- ・前回の改善計画の進捗評価の説明を行い、意見をいただく。

I. 事業運営の評価

目黒様：災害の訓練は繰り返し必要。ハザードマップに水害、地震の時にどうなるか出ているので、参考にして勉強していくと良い。

小石様：災害時、ここが使えない時はどうするか。

→家に帰れる人は帰る。帰れない人は避難場所へ行く。

目黒様：高志中等校は一般の人と部屋を別にしてある。

斎藤先生：岡山県の小規模多機能では被災時、帰宅した利用者へはその職員が訪問し、帰れない人は避難所。その後公民館を小規模として使った。全国の小規模から来た人に夜勤をしてもらい、そのスタッフは外への訪問をするやり方が土地勘もあって良い。行政の考え方は逆で、苦労していた。

II. サービス提供等の評価

目黒様：支え合いの仕組みづくりに参加し、夜の茶の間が素晴らしいとPRしています。結果がどんどん出てきていて皆うらやましがっています。

- ・ご意見を頂いたものをまとめ、3月の最後にもう一度運営推進会議を開催し、現在検討中の改善計画もご提示します。皆さんの了解を頂いて公表させて頂くこととなります。

7、事例紹介

サービス評価の後半の、地域との関わりについてと、希望が叶うように、事例を通して一緒に考えて頂きたいと思います。

M・S様

- ・当初は不安があったが、自身が付き、喜びがあり、表情、声が明るくなった。先日移動の際額をぶつけてしまったが落ち込むことなく、根気強くやって良かった。夜はここで安心されている。自宅に人が来てくれるのが嬉しい。帰宅中は電話し、出なければ見に行くようにしている。小規模多機能でないとできない支援。ようやくここに辿り着いた。地域の方からも見守りしてもらいたい。今までと同じ関わりをこれからもお願いしたい。

大嶋様：顔を見ても、自身がついてきたのがわかる。

目黒様：あんまんを差し入れ、お茶を入れたら喜んでくれた。人と色々な話をするのが楽しみだそう。本人、記憶力がいい。近所の人にもお願いしてある。周りの人もよくやってくれている。

8、これからの取組

Y・I様, Y・F様夫妻

- ・今までやっていた役割や生活にハリがなく、気持ちが下向きになっている。るびなすの畑と一緒にできないだろうか。
- ・地域福祉ネットワークに参加した時、畑を手伝うと地域の方に言って頂いた。次の夜の茶の間で作戦会議をしたい。

人材不足と地域貢献

- ・地域福祉ネットワークで、就労支援事業所の方との出会い。掃除など就労の場として、社会の仕事へのステップとして。
- ・地域の方の力を借りて、配食, 見守り, 声掛け。元気シニア募集。障がい者の就労、一緒に、共生社会の実現。支援するばかりでなく、支え合い。

9、その他ご意見等

- ・目黒様：警察官OB（POB）去年12月発足。中学校区で分かれて帽子とベストを着てパトロール、やれる時にやれる方法でやっています。小学校へお話し行きましたら、外で子ども達が声かけてくれ、人気抜群です。高志中等校の評議員もしていますが、教育が変わってきているようです。勉強や運動ばかりでなく、その人の持ち味と、世の為人の為になるようにというように。
 - ・斎藤先生：学校でもがん教育が始まります。15～19歳小児がんは80%が治るので、治った人は、体力がなかったり放射線治療をしていたり。平成32年から3年かけて行くと文科省。高志中等校へ、がん教育をしに行きました。心の豊かな子をつくらうということ。